

## 九州運輸局メールマガジン フォトライブラリー 第 463 号 令和 4 年 12 月 22 日 (木)

### 現場レポート

#### 長崎市の小学校の児童に海事産業施設見学会を開催しました。 ～普段目にしない造船所を見学、船長・機関長との交流も～

長崎市内には多くの造船所があり、また、学校の授業でも造船業について学習をするなど「造船の街」が息吹いています。一方では、子どもたちも、そして、学校の先生方も造船についてあまり馴染みがないのも現状です。そうしたなか、造船所見学が決まると、子どもたちの笑顔があふれたと学校の先生方から聞きました。

当日は、まず、福岡造船（株）長崎工場の担当者より、船がどうやって建造されるのか、その仕組みや、船が物流のほとんどを支えている現状についての講話を聞きました。その後、子どもたちから、「鉄は錆びるが、船にはどのようにして錆びるのを防いでいるのか」など、質問が相次ぐほどでした。

造船所の見学では、建造工程にそって見学をし、徐々に形になっていく船に興味深そうに見入っていました。また、建造中のケミカルタンカーの船長・機関長（ともにインド出身）がサプライズで見学会に訪問し、子供たちにメッセージを寄せてくれました。英語でのメッセージでしたが、子供たちは目を輝かせて聞き入ってくれました。

為石小学校の先生方からは、「いいものを見せていただいて、また、船長・機関長との交流も子供たちにとってかけがえのないものになったと思う」「船長・機関長と直接お会いできて、お話を聞くことが出来たのは、「キャリア教育」の観点からも、大変有意義でした。子供たちの心に残ることだと思います」とのコメントをいただきました。



福岡造船（株）長崎工場の担当者からの説明を熱心に聞く児童のみなさん



※写真撮影時のみマスクを外しています。

建造中の船舶をバックに記念写真です。（赤色の作業着を着用されている方が、船長、そのとなりの青色作業着を着用されている方が機関長です）



船長、機関長よりそれぞれ暖かいメッセージをいただきました。

モヒト・マスール (Mohit M Mathur) 船長

「船長は他の専門職と同じように多くのやりがいがあり、船長はそれら含めて魅力があります。いつの日か、あなた達の中からこの船員(船長)という職業で世界中を航海する人が出てくることを願っています」

ディパック・スーザ (Deepak Souza) 機関長

「いつかあなた達の何人かがエンジニアとして自分自身を船で見出したら嬉しいです。学生としてそれまで人生の旅路が素晴らしいものでありますよう祈っています」